

養護教諭部会研修会(オンデマンドWeb研修)

病気のある子どものきょうだいの気持ち  
〜子どもが「子ども」でいられるように〜

講師 NPO法人しづたね 清田 悠代 さん

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度も昨年度に引き続き、動画配信による研修会となりました。

重い病気のある子どもの「きょうだい」の支援についてお話をしただきました。

Siburi ng..男女を分けないきょうだいという意味の「しづ」と、たねをまこうという意味の「たね」とをとり、「しづたね」という団体名にされたとのこと。

前半は、「きょうだいさん」が持ちやすい気持ちやその気持ちに對して、どのように対応されているのかお話し頂きました。「困惑・恥ずかしさ」を持っている場合は、どんな気持ちがあっても大丈夫、いつもきょうだいを守らなくても大丈夫を伝える。「怒り・嫉妬」の場合、まずは話してくれたことがすごいこと、怒りの感情は大事なことで、その怒りをみんなに願いがめること。「寂しき・自尊心の低下」の場合は、5分でもいいからきょうだいのことを見てあげる時間を持つ。そして肯定的な言葉のシャワーを沢山浴びさせる事が大切とのことでした。

後半は、たねまき活動として、きょうだいさんと直接関わる啓発活動の中で、大事にされていることや、「グリーフ」(大切な人やものをなくした時の反応)プログラムについてお話し頂きました。きょうだいさんが主役の日を作り、自分を守ってくれる大人がいる安心な場所を目指し、自分が大事にされてきた経験を積む体験をしてもらうことを軸に活動されていることでした。また、きょうだいを亡くされたグリーフについては、背景を知ることや、子ども時代を安心して、「子ども」として過ごせるように、あなたを伝えるための活動されているとお話でした。



豊中市  
学校保健会だより

豊中市学校保健会 会長挨拶



豊中市学校保健会 会長 荒木 雅夫

豊中市学校保健会の活動に際しまして、いつもご理解とご協力いただき厚く御礼申し上げます。

豊中市学校保健会は園児・小中学校生たちの体力増進や豊かな心を育むために豊中市三師会や学校保健関係者と協力し、各種部会の開催による協議や提案、各専門委員会および部会などの研修会の実施、学校環境衛生検査の実施など、学校保健に関わる諸課題に対して様々な角度からの取り組みを行っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、ここ3年間の総会は書面開催となっており、同じく実施を見送って

行 豊中市学校保健会事務局  
豊中市学校保健会事務局  
(教育委員会事務局学務保健課)  
電話 06-6858-2570

きた各研修会の多くを今年度は感染対策をふまえた動画配信等で実施し、学校保健会活動はコロナ前の活動状況への復帰にむけて順調に推移しております。豊中市学校保健会は引き続き、子どもたちのために精力的に活動してまいります。

効果があります。口呼吸が習慣化すると異物(ウイルスや細菌)の侵入が容易になります。口呼吸は生涯にわたり、様々な疾患をもたらす要因になると考えられます。家庭でお口が常時開いているお子さんは、口呼吸が習慣化している可能性があります。口呼吸の原因が口腔内疾患によるものか、喉や鼻疾患によるものか、一度専門医に相談すると良いです。

困難な時こそ子どもたちの声を 豊中市立寺内小学校 校長 坂上 澄夫

随分制限が緩和されてきたとはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大は続いておられます。「コロナ禍の変化の中で、ストレスを感じ登校する子どもたちがいる」との報道もありましたが、本校でも、何となく不安や無力感が漂うのを感じておりました。

多くの出演者と人数制限が必要なぐらいの観客が集まり、毎回に子どもたち自身が、不安感や無力感を打ち破った瞬間でした。「子どもたちの声は困難な時こそ大切だ。」とあらためて感じさせられました。今後も子どもたちの声を学校でのさまざまな場面に反映させたいと思います。



豊中市 学校保健会 1年

- 春: 総会(2022年度は書面開催)、水道水検査および貯水槽外観検査、プール安全管理研修会
- 夏: プール水質検査、豊中市立こども園への手洗い指導(第1回)
- 秋: 豊中市立小中学校の教室の照度検査、豊中市立こども園への手洗い指導(第2回)
- 冬: 「豊中市学校保健会だより」の発行、豊中市立小中学校の教室の空気検査

随時

- 学校保健会 理事会・評議員会
- 学校保健会 各専門委員会研修会: 内科専門委員会、眼科専門委員会、整形外科専門委員会、皮膚科専門委員会、環境衛生専門委員会、口腔衛生専門委員会、精神保健専門委員会、耳鼻科専門委員会、産婦人科専門委員会
- 学校保健会 各部会研修会: 校園長部会、養護教諭部会、学校保健関係教職員部会



### 新型コロナウイルス「5類」に引き下げ マスク使用について考える

豊中市立第十四中学校 教頭 川村 健市

1月27日、政府は新型コロナウイルスの感染症法上の分類を5月8日から季節性インフルエンザなどと同一「5類感染症」に引き下げることとした。中でも「マスクの着用」については、これまで屋内での着用を推奨していたが、5類移行後は「個人の判断に委ねる」のを基本的に検討するとしている。

現在、「屋外では原則マスク不要」となっているが、登下校、体育の授業、クラブ活動など屋外において、多くの子どもたちがマスクを着用している場面を見かける。夏の暑い日に「熱中症対策でマスクをはずさない生徒たちも多い。コロナ禍により様々な場面でもマスク着用を求められる生活になり、マスク着用が当たり前となってしまうため、「外すことに抵抗がある」「顔を隠していた方が安心」「ニキビが隠せなくなる」「マスク美人と言われる」「マスク美人と区別されたくない」などのマスクに関わる悩みを持つ生徒が増えてきた。

今後、マスクを外すことに悩んでいる生徒に対しては、一律に対応するのではなく、「心の問題」として一人ひとりの状況、気持ちに寄り添って対話を重ね、共通しながら、教職員が共通認識を持ってチームとして対応していくことが求められている。併せて、マスクをつけることによる弊害(酸素不足による頭痛、接触性皮膚炎、コミュニケーション障害など)もきちんと説明していきながら、マスクするものないも子どもたちが主体的に判断できる環境作りを進めていく必要があるのだろう。



感染対策の長期化で素顔を隠せることが不安になっているという心理から、中高生からマスクは「顔パンツ」と呼ばれているとの話を聞き、思春期にある中学生は周りの目を気にしやすいため、理由の1つなのであるかと思った。

学校生活を送り、授業や行事等の教育活動が継続していきけるよう、教育委員会、学校医、保健所等との連携を強化しながら「withコロナ」の取り組みを進めていきたい。

### 小児のけいれん・てんかんについて

講師 豊中市学校保健会評議員 山本 清一郎 先生

今回の研修では、けいれん・てんかんに関して病態生理の基礎的な部分から病気の種類や特徴、実際の対応方法等実践的な部分まで幅広くお話しいただきました。



日常生活における注意点としては、強い光や音が発作を誘発する原因となることからそういった刺激を避けること、またけいれんの種類によっては見えないものもあること、観察することが重要であること等、学びの多い研修となりました。

### 歯科検診・口腔外傷時の対応等について

講師 豊中市学校保健会評議員 倉賀野 徹 先生

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は動画配信による研修会となりました。



### 健やかな心と身体を育むために 乳児期の人との関わりを育む

豊中市立野田こども園 保育教諭 河嶋 愛奈

乳児期(0歳〜2歳)は情緒の安定や意欲的な活動の基礎となるため「健康な心と身体」「身近な人との関わり」「身近なものと関わり」という3つの視点で幼児の保育に関するねらいが定められており、私たちこども園職員は子ども一人ひとりの状況を捉え、その思いを受け止めながら関わっていくことを大切にしています。その中でも「身近な人との関わり」が子どもたちに与える影響はとて大きく、安心できる居場所があつてこそ、子どもたちは自由に遊びまわり、伸び伸びと生活することができると。

野田こども園の1歳児は、子ども10名に保育教諭が2名のクラスです。私たちは入園してきた子どもたちが安心してこども園で過ごせるように保育教諭との信頼関係を築くため、着替えや食事、午睡、思いを受け止めることにもできる限り同じ保育教諭が関わるように意識して保育をしています。遊びでは「ふれあい遊び」といってスキンシップの遊びを大切にしています。乳児期の子どもたちにとってスキンシップは安心感を育むとても大切な遊びのひとつです。ふれあい遊びを通して「たのしいね」「おもしろいね」「うれしいね」など子どもたちの気持ちに共感しながら心地いと感じられるように遊んでいます。

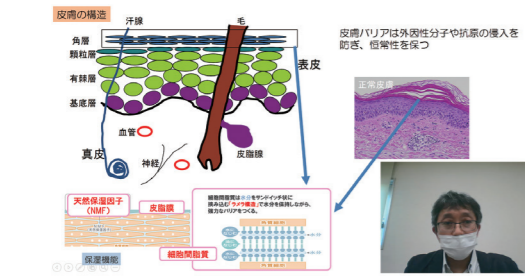
最初は「なにをされるの!?!」と体が硬かった子どもたちも、繰り返し遊んでいくことで、安心して体をあずけ次の展開を楽しみに待ち、「もういっかい(やっつて)！」と保育教諭に求める姿も出てきます。Aちゃんは入園当初、保育教諭が誘ってもなかなか遊ばず表情も硬い姿がありました。同じ保育教諭がAちゃんの気持ちに寄り添いながら、「阪急電車」という膝の上に子どもを座らせて楽しむふれあい遊びを繰り返す中で、少しずつ笑顔になる姿が出てきました。Aちゃんの好きなその遊びをクラスでも繰り返し楽しみながらすること、



### 子どもにも多い皮膚疾患への理解

講師 豊中市学校保健会皮膚科専門委員長 谷守 先生

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は動画配信による研修会となりました。



子どものうちにとつて不安やストレスになり、それがさらに症状の悪化を招く場合があるといったお話がありました。

皮膚疾患で苦しんだり悩んだりしている子どもたちにも、先生方がしっかりと寄り添うために必要な疾患への理解につながる、有意義な研修となりました。